

函館おしま病院の記念すべき一日となった緩和ケア病棟の起工式

念願のホスピス開設に向けて

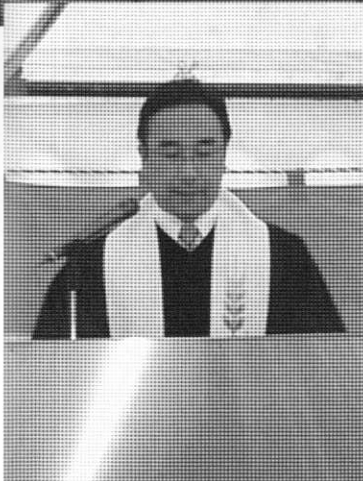
医療法人敬仁会函館おしま病院理事長・院長

福德 雅章

ふくとくまさあき 昭和三十六年函館市生まれ。金沢医科大学卒業後、同大学血液免疫内科助手や同大学血液センターの副部長を兼任。平成十年には栄光病院（福岡県）の緩和ケア病棟に勤務。平成十四年一月から函館おしま病院（旧渡島病院）に勤務。二月より同病院の理事長、院長に就任。



函館おしま病院の緩和ケア病棟（ホスピス）増改築工事の起工式は、8月2日関係者約40人が出席してキリスト教形式で行われた。



牧師の村岡昇さん（秋田県・緑の牧場教会）は、福德院長とは小学校以来の友人。

——緩和ケア病棟の増改築工事の起工式が行われ、いよいよホスピス実現への大きな一歩が踏み出されました。

「八月二日に無事起工式を終えることができました。ここに至るまでには本当に色々なことがありました。私自身は『ホスピス』をキーワードとしていくつかの転機を経験しました。まず、五年前に大学を飛び出して、福岡の栄光病院に勤務したことです。この時は、ホスピスをやりたい一心で、決断し、長年住み慣れた金沢の地を後にしました」

——函館に戻ってこられたのが二年前ですね。

「そうですね。二年前、地元函館に戻ることを決めたのも『ホスピスを函館に造ろう』という思いからでした。さらに昨年、今の病院を継承することとなりましたが、これもホスピスを造るための一ステップでした。決めるのが早いのは私の真骨頂であり、欠点でもあります。しかし、とにかく、ここまですやくたどり着いた、という心境です。私の思いを多くの方が共感してくださり、自分のことのように色々とお支援してくださいました。そのお陰と、感謝の気持ちで一杯です」

●緩和ケア病棟は全室個室で

「工事のスケジュールと緩和ケア病棟の概要を教えてください。」
 「八月十八日から増改築工事がスタートしました。現在の駐車場部分に三階建ての緩和ケア病棟（ホスピス病棟）を増築します。一階（一部はピロティで駐車場として利用）は、談話コーナー、喫茶（バー）コーナー、家族室、相談室などに利用しますが、憩いの場としての庭や、癒しの場として暖炉を設置する予定です。二階が二〇床の病棟となります。」

「病室は個室となるのですか。」
 「全室個室です。いずれの部屋もウォシュレットトイレ、エアコンを完備し、インターネットの利用もできるようにします。さらに設備と広さに配慮した特別室も数室用意します。その他、二階フロ



月1回開かれている院内でのホスピス勉強会の様子

アーにはファミリキーチンも置きます。三階部分は既存の介護療養型病棟とつながりますが、特別浴室を設置します。増築工事は年内に終了する予定ですが、その後は既存建物の改修工事も行い、介護療養型病棟の療養環境をさらに整えようと計画しております」

●函館おしま病院のホスピス

「函館おしま病院が目指すのは、どのようなホスピスですか。」
 「私たちのホスピスは、木の香りのする、自然の色・光・音に配慮した、どちらかと言えば、病院らしくない、自分の家のような温かい雰囲気の間としたいものです。ただし、いい物が出来上がっても、そこで働く私たちが中途半端であれば、そこはホスピスとは言えません。工事が進むと同時に、私た

ちは『ホスピスのこころ』を磨いていかなければならないと引き締めております」

「ホスピスの開設に向けて、院内で取り組まれていることは。」

「現在、月一回のペースでホスピス勉強会を院内で開いています。これは、ホスピスの各論的なテーマはもちろんです。『医療者としてどうあるべきか』『コミュニケーション』などといった総論的なテーマまで幅広く、学ぼうようにしております。少しずつ回数を重ねながら、お互いの知識や感性を磨き、開設の準備を進めていこうと思っております。勉強会へは、ホスピスに興味のある方たちの院外からの参加も大歓迎ですし、できる限り声をかけるようにしております。職場の垣根を越えて、ホスピス・緩和ケアにおける知識や技術を向上させる場とすることができればと願っています」

●スタッフの補充と育成

「ホスピスでは患者や家族のケアに医師や看護師のほか、多くのスタッフが必要です。」

「ホスピスはチーム医療です。スタッフはまだ医師、看護師を募集中ですが、やはりホスピスの心を理解してくださる感性豊かな方に来て頂きたいと思っております。」

また、チャブレンとして、教会牧師の方にも協力して頂く予定です。これは、宗教色を打ち出すということではなく、死に直面した方々のスピリチュアルな痛みを正面から受け止めて、支える役割を担って頂くと同時に、スタッフの精神的なサポートもお願いする予定です。その他、音楽療法士、臨床心理士の方にもチームに加わって頂ければと思います。さらにホスピスは多くのボランティアの協力も必要であり、時期を見て、本格的に募集する予定しております」

●今後について

「今後の課題については、どんな点が挙げられますか。」

「スタッフの補充と教育、機能評価受審など、多くの課題をまだ残しておりますが、産みの苦しさとともに、一から造りあげる楽しさも感じています。あせらずに、時間をかけて、いいホスピスを作り上げ、少しでも多く、がんで苦しまれていらっしゃる方たちのお手伝いできればと思っています。また、地域の中でホスピスが根付き、その輪が広がるような役目を担えるよう、今後も色々な場で啓蒙活動にも積極的に取り組んでいくつもりです。ですので、よろしくお願いたします」